

イデックスオイルレポート ~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

- 第1週、9/5のWTI原油は、先週比2.14ドル安の61.87ドルとなった。米労働省が朝方発表した8月の雇用統計によると、非農業部門の就業者数は前月比2万2000人増と、市場予想(7万5000人増=ロイター通信調べ)を大きく下回った。失業率は4.3%と、0.1ポイント上昇した。米雇用の勢いの失速が鮮明となつたことから、需給の先行きを巡る不透明感が強まり、この日は朝方から売りが先行した。
- 第2週、9/12のWTI原油は、先週比0.82ドル高の62.69ドルとなった。ウクライナ軍がロシア北西部プリモルスク港の主要石油輸出ターミナルをドローンで攻撃し、ターミナルの操業が停止したと報道した。このドローン攻撃により、2隻の船舶も炎上したという。プリモルスク港はロシア産原油の主要輸出拠点となつていて、ロシア産石油の供給混乱をめぐる警戒感が高まり、相場は買いが先行した。
- 第3週、9/19のWTI原油は、先週比0.01ドル安の62.68ドルとなった。米エネルギー情報局(EIA)が今週発表した週報でディスティレート(留出油)在庫の大幅積み増しが示されたことや、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」による増産を背景に需給が緩むとの警戒感が広がる中、朝方から相場は売りが先行した。一方、国連安全保障理事会は19日、対イラン制裁停止を継続する決議案を否決した。これにより、今月下旬に再び制裁が発動される。
- 第4週、9/26のWTI原油は、先週比3.04ドル高の65.72ドルとなった。ロシア南部アフリスキー製油所で26日、ドローンの破片が設備に落下し火災が発生した。情報筋によれば、一次精製装置が損傷して稼働を停止したという。同製油所は8月末にもウクライナのドローン攻撃を受け、9月中旬に再稼働していた。一連の報道を受け、ロシア産石油の供給混乱をめぐる警戒感が高まり、相場は買いが先行した。

	9月平均	WTI原油	63.49ドル	前月比	-0.44ドル	為替 1ドル	148.99円	前月差	0.28円
--	------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
9/1~9/3	10.5 / 5.2		+1.0		+1.0
9/4~9/10	10 / 5		+2.0		+2.0
9/11~9/17	10 / 5		+0.5		+0.5
9/18~9/24	10 / 5		-0.5		-0.5
9/25~9/30	10 / 5		-0.5		-0.5

※補助金については、左 ガソリン・軽油/右 灯油・重油

メニュー価格推移	【単位:円/KL】		
	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2025年4~6月C重油決定価格	83,930	85,930【83,930(メニュー)+ 2,000(プレミアム)】
	2025年7~9月C重油仮価格	82,760	85,190【82,760(メニュー)+ 2,430(プレミアム)】
	2025年7~9月C重油決定価格	83,970	85,990【83,970(メニュー)+ 2,020(プレミアム)】
決定価格 前期比	40	60	

内航燃料油価格推移	【単位:円/KL】		
	適合C重油	A重油	
	2025年4~6月決定価格	91,330	95,100
	2025年7~9月仮価格	90,590	
	2025年7~9月決定価格	91,390	100,600
決定価格 前期比	60	5,500	

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/KL	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	25/8	9桁速報	66,962	72.06	147.74	1,665
	25/9	最終予測	66,808	71.95	147.62	-154
	25/10	展望	64,431	70.64	145.00	-2,377
	25/11	展望	63,961	71.11	143.00	-470

【次世代エネルギー】〈都内で「燃料電池タクシー」、2025年度末に200台へ〉

東京都は9月3日、水素利用を加速させるための官民連携プロジェクト「TOKYO H2」を発表した。その最初の取り組みとして、全国で初となる燃料電池(FC)タクシーの運用を開始。トヨタの「クラウンFCEV」を採用し、日本交通や国際自動車など都内タクシー会社7社が計7台を導入した。このFCタクシーは今後順次増車し、年末に100台、2025年度末に200台、そして2030年度に約600台の導入を目指す。利用者向けには、タクシー配車アプリ「S.RIDE」で国際自動車など3社のFCタクシーを直接選択できるサービスも開始された。また、情報発信拠点として「TOKYO H2 HUB」も開設。今回のタクシー大量導入を起爆剤とし、運輸物流分野も含めたFCEV全体の普及を促進する。都は2035年度にFC商用車約1万台という普及目標を掲げており、「TOKYO H2」の統一ロゴのもと官民連携で多様な分野での水素利用を促し、エネルギーの安定供給や社会全体の理解と関心を高めていく計画だ。

出典:日経BP <https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/05269/?ST=msb>

【10月価格変動要因】

- 需要:
 - ・米国経済は雇用環境悪化・財政収支赤字・ホワイトハウス閉鎖。米連邦政府の予算が日本時間13時を以て失効し、米政府機関が一部閉鎖に至っている。トランプ政権と民主党が対立し、期限までに繋ぎ予算が成立しなかったことが背景。
 - 10月3日に予定されていた米雇用統計の発表は遅れる見込み。9月のFOMCにおいて利下げを決定し、年内1~2回の利下げが織り込まれている米金融政策にとって雇用環境は引き続き焦点が当たるもの、市場参加者は目隠し状態となっている。
 - FOMCは年内1~2回利下げ見込み。
- 9月のFOMCでは25bpの利下げを決定。声明文では米労働市場減速を懸念した文言が加えられた。
- パウエルFRB議長は会見にて「(労働市場が)とても堅調だとはもはや言えない」、「(雇用と物価という)両面のリスクを抱えた状況にあり、リスクのない道筋は存在しない」、「リスク管理の為の利下げ」、「50bpsの利下げに対する広範な支持は無かった」等と発言。
- 供給:
 - ・中東情勢は軟化。トランプ米大統領が示したパレスチナ自治区ガザの包括的な和平案について、9/29にイスラエルが合意。現在カタール経由でハマス側の回答待ちという状況。
 - イスラエルは産油国ではない為、直接原油需給に与える影響は限定的ではあるものの、中東情勢緩和は原油相場にとっては売り要因となりうる。
 - OPECは11月も増産方針。サウジアラビアは市場シェアの回復を企図し、11月の増産ペースを加速させる可能性があるとリーク記事が報じられている。増産幅は最大500KBDになると指摘も存在。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)		
	Brent	WTI
High	70	66
Average	65	61
Low	59	56

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)		
	Brent	WTI
High	71	65
Average	64	60
Low	57	54

日付	国	10月経済指標カレンダー	日付	国	10月経済指標カレンダー
1	日本	7~9月期日銀短観・四半期大企業製造業業況判断	24	日本	9月全国消費者物価指数
1	ユーロ	9月消費者物価指数	24	米国	9月新築住宅販売件数
1	米国	9月ADP雇用統計	29	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
1	米国	9月ISM製造業景況指数	29	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
3	米国	9月非農業部門雇用者数変化	30	日本	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
3	米国	9月失業率	30	日本	日銀展望レポート
3	米国	9月平均時給	30	日本	植田和男日銀総裁、定例記者会見
3	米国	9月ISM非製造業景況指数	30	ユーロ	7~9月期四半期内総生産
8	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	30	米国	7~9月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
15	米国	9月消費者物価指数	30	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利
16	米国	9月小売売上高	30	ユーロ	ラガード欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
17	ユーロ	9月消費者物価指数	30	米国	9月個人消費支出